



第 40 回ジャパンウィーク 2015 年

フィンランド・ヘルシンキ

2015年10月21日(水)~26日(月)



ご挨拶

北欧で最初、フィンランド・ヘルシンキにおいてジャパンウィークが開催されました。フィンランドは、北欧の中でも他国と一線を画しEUに加盟するなど、独自路線を歩んできました。IT分野でもヨーロッパを牽引しWifi環境などインフラの整備では日本を上回っております。安全な水、比較的良い治安、清潔な街並みから日本の皆様は、フィンランドに気持ちの良い国という印象をお持ちになったと思います。

観光面では、フィンランドの訪日渡航者数は、年間約2万人。その数は、他のヨーロッパ諸国と比較すると決して多くはありません。しかし、フィンランドは歴史的背景から親日家が多数おり、日本文化に興味を示し勤勉で真面目な国民性を日本の皆様も感じたことでしょう。また、性格でも日本人と共通している部分があったことも見

いだせたのではないのでしょうか。

このような中、両国間の国際交流及び相互理解をする「第40回ジャパンウィーク2015年フィンランド・ヘルシンキ」が10月21日から26日まで6日間開催され、日本から68団体1,000名、フィンランドから8団体50名の参加をいただきました。また、参加団体の皆様は舞台公演、展示・実演、そして、ヘルシンキ関係団体への訪問交流を通じ、草の根レベルでの双方向の交流が行われました。ヘルシンキ市民をはじめフィンランドの皆様には、舞台、展示会場へ多数来場いただき交流の輪が広がりました。両国の皆様におかれましては、ジャパンウィークを通じこの度の交流事業が今後の懸け橋になれば幸いです。

イベント概要

開催地 フィンランド共和国ヘルシンキ市

開催期間 2015年10月21日(水)～26日(月)

開催規模 日本側参加者1,000人 フィンランド側参加者50人 見学者約64,000人

主催 公益財団法人国際親善協会、フィンランド共和国ヘルシンキ市

後援 在フィンランド日本国大使館、国土交通省、文部科学省、フィンランド政府観光局、ヘルシンキ市観光局、日本政府観光局(JNTO) 独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ)、一般財団法人自治体国際化協会、一般財団法人地域伝統芸能活用センター 社団法人日本海外協会

助成 公益財団法人 双日国際交流財団

協賛 日本航空株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社みずほ銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社 株式会社日本旅行

参加団体一覧

北海道	二風谷民芸組合/アイヌ工芸	愛知県	金城学院大学書道部/書道パフォーマンス
宮城県	仙台市/フィンランドとの10年の連携の歴史		おかざき匠の会/工芸
福島県	fukuru/着物ドレス 岩橋知子押し花教室/押し花		愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ/吹奏楽
埼玉県	剣伎衆かむむ/殺陣パフォーマンス 小林未都/ピアノ弾き語り 長沼静きもの学院熊谷校/着物着付け 特定非営利活動法人川口フィンランド協会/川口ものづくり	三重県	日本画 彩潮会/日本画 日本画 彩心会/日本画 iEARN 大正琴プロジェクト&防災世界子ども会議/大正琴・防災世界子ども会議の発表
東京都	Dr.Subsonic/REI/和風ピアノ EcKoto Creations/箏 佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室/琉球舞踊 全日本婚礼美容家協会/着物ショー 株式会社 アートクロス/美術品展示 俳画 優美会/俳画 キャラクター工房 MIYABI/イラスト 株式会社ポプラ社/絵本 文化服装学院 生涯学習センター 有志/服飾 早稲田大学書道会/書道 日本古流華道会/いけばな 赤坂なでしこ会/木目込人形 プランドゥ・ジャパン海外セミナー/見学	滋賀県	カラーガードサークル LUSTER/カラーガード
神奈川県	ORIENTARHYTHM/プロジェクトライブ 伝統芸能南京玉すだれ楽奏一門/南京玉すだれ 前川 朋子/声楽 クロシエット ローズ/ポーセラーツ 裏千家茶道サークル「若草会」/茶道	京都府	立命館大学書道部/書道パフォーマンス いけばな rime flower/いけばな SIMA./現代書道 関西日本・フィンランド協会/協会の活動紹介 学生折り紙サークル colorful & FIT/折り紙
富山県	富山大学芸術文化学部とラハティ応用科学大学デザイン学部/大学授業紹介	大阪府	結城クラブ/結城紬・茶菓 特定非営利活動法人 GOFAR BANK/絵本・世界の子供の絵画・風船アート LuLu Bellydance Team [Marjana]/ベリーダンス 西日本友好親善訪問団/交流
石川県	チーム文福/水引	兵庫県	AIS BALLET JAPAN/バレエ 宝塚茶道同好会/茶道
福井県	福井おむすび同好会/おむすび	和歌山県	スタジオ ぽこ・あ・ぽこ/和風タップダンス
長野県	TOKARA/和太鼓	鳥取県	KEIKO*萬桂/舞書
静岡県	OTSU/障がい者アート 煎茶道静風流/茶道	岡山県	こすもす会有志/絵画・見学
愛知県	太鼓衆 翔鼓/和太鼓 中京大学 晴地舞/よさこい 師勝太鼓「鼓つつ」/和太鼓 アンサンブル・リベルタ/和楽器アンサンブル	山口県	山口県立大学文化創造学科/デザイン
		香川県	室内楽/茶道
		愛媛県	松山大学書道部「南風会」/書道
		福岡県	日本旅行協定旅館ホテル連盟九州支部連合会/旅館のおもてなし
		熊本県	国際倶楽部/書道
		沖縄県	八重山古典音楽研究会/三線・八重山民謡
		フィンランド	在フィンランド日本国大使館・日本政府観光局 (JNTO)/日本紹介 Helsinki Symphonic Winds/吹奏楽 Kari Ikonen (Jazz Pianist)/ピアノ Aki Rissanen (Jazz Pianist)/ピアノ フィンランド日本協会/活動紹介 日本フィンランド文化友の会/活動紹介 Furoshiki Kääro/ふるしき Nordic Shiatsu Centre/指圧
		その他	見学5団体

合計 76 団体 1,050 名 (うちフィンランド 8 団体 50 名)

実行委員会

日本側		
実行委員長	愛知 和男	元衆議院議員/公益財団法人国際親善協会 会長
名誉顧問	篠田 研次	在フィンランド日本国大使館 特命全権大使
理事	岡本 保	一般財団法人自治体国際化協会 理事長/公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	今村 忠雄	社団法人日本海外協会 会長/公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	真鍋 精志	西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長兼執行役員
理事	二宮 雅也	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役社長/公益財団法人国際親善協会 理事
理事	武井 真剛	日本航空株式会社 本店国際販売部部長/公益財団法人国際親善協会 理事
理事	丸尾 和明	株式会社日本旅行 代表取締役社長/公益財団法人国際親善協会 理事
事務局長	若林 幸宏	公益財団法人国際親善協会 常務理事
(順不同)		
ヘルシンキ側		
実行委員長	Mr. Jussi Pajunen (ユッシ・パユネン)	ヘルシンキ市長
理事	Mr. Stuba Nikula (ストゥーバ・ニクラ)	ヘルシンキ文化局長
理事	Ms. Maija Tannien-Mattila (マイヤ・タンニネン=マッティラ)	ヘルシンキアートミュージアム HAM 館長
理事	Mr. Marja-Leena Rinkineva (マルヤ=レーナ・リンキネヴァ)	ヘルシンキ市経済開発局長
理事	Ms. Saila Machere (サイラ・マシエレ)	ヘルシンキマーケティング局長
理事	Ms. Tuulikki Becker (トゥーリッキ・ベッカー)	Visit Helsinki CEO

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・フィンランド両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、フィンランド側はユッシ・パユネン市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をヘルシンキ市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合 5 回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確かなものにして行った。

日本側では 2014 年の秋より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。



2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ヘルシンキ市にご協力いただいたおかげで期待以上の観客数であった。以下が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

①メディアでのプロモーション

プレスリリース、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ウェブサイトのPR展開をしていただいた。

①プレスリリース

プレスリリース、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ウェブサイトのPR展開をしていただいた。

②新聞

下記の各新聞社がジャパンウィーク情報を掲載していただいた。

- ・[Helsinki-info] (9月16日) ヘルシンキ市内各家庭へ配られる新聞
- ・[Helsingin Uutiset] (10月17日)
- ・[Hufvudstadsbladet] (10月20日)
- ・[Metro] (10月22日)
- ・[Helsingin Sanomat, event calendar] (10月21日から26日)

③雑誌

- ・[Gloria] (10月21日)

④ラジオ

- ・[Radio Yle Puhe] (10月23日) Visit Helsinki にインタビュー

⑤テレビ

- ・[MTV3 Kymmenen uutiset] (10月25日) 茶道グループを取材

⑥ウェブサイト

- ・Visit Helsinki 独自のウェブサイトにて各参加団体を紹介
- ・Visit Helsinki のウェブ上のニュースレターでジャパンウィークを紹介
- ・Visit Helsinki のソーシャルメディアにてジャパンウィークを紹介 (フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ブログ)

②PRツール作成およびその配布

- ①**アドシェル** (adshells、回転式ポスター) ヘルシンキ市内各要所に 10 月 12 日から 18 日は 125 か所、10 月 19 日から 25 日は 250 か所
- ②**電光掲示板** ヘルシンキ市内各要所に 30 か所 (10 月 19 日から 25 日)
- ③**ポスター** (50 cm×70 cm) ヘルシンキ市内各要所に 30 枚
- ④**チラシ** 各ジャパンウィークの会場、ツーリストインフォメーションセンターおよび市内のショップにてフィンランド語にて 2,000 枚 英語にて 500 枚





3. 各イベントプログラム

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」である。舞台公演、展示・実演についてフィンランド側からの団体にも参加していただき、舞台公演出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは10月21日(水)の12:00よりカンピョショッピングセンターの特設ステージにてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があげた。23日(金)にはヘルシンキ市が日本の参加者を歓迎するウェルカムレセプションが市庁舎にて実施された。舞台公演は21日(水)夜からサヴォイシアターでの舞台公演がスタートし、26日(月)まで毎日開催された。展示・実演は22日(木)のリボンカッティングセレモニーに始まり、アンナンタロでは25日(日)まで、別会場のヴァンハ・サタマでは26日(月)まで実施された。交流プログラムの学校訪問については17団体、老人ホームは2団体、テーマ別の交流プログラムについては4団体が参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流イベントおよびヘルシンキナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4. 在フィンランド日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終わることができたのは一重に公式行事にご臨席を賜りました在フィンランド日本国大使館篠田特命全権大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物であります。また、今回も数多くのボランティアの方々にご協力して頂きました。ジャパンウィークスタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張ってくださいました。ボランティアの方々のご協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではありません。

5. スタッフおよびご協力いただいた方々

ヘルシンキでのジャパンウィーク開催が決定してからイベントが終了するまで、以下の方々には、実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィークを成功へと導いた。

Visit Helsinki
Ms. Marianne Saukkonen
(イベントプロデューサー)
Ms. Maarit Pitkänen
(マーケティングコミュニケーションディレクター)

City of Helsinki
Ms. Leena Komonen
(プロトコール長)
Ms. Victor Andersson
(シニアアドバイザー)

Savoy Theatre
Mr. Ilari Suonpaa
(テクニカルディレクター)

Annantalo
Ms. Kaisa Kettunen
(館長)

Wanha Satama
Ms. Anne Laukkanen
(セールスマネージャー)
Ms. Jennica Sivonen
(イベントコーディネーター)

フィンランド日本人会
Mr. Norio Tomida
(会長)

フィンランド日本協会
Mr. Olli Juvonen
(会長)

日本フィンランド文化友の会
Mr. Ronny Rönqvist
(会長)

日本航空株式会社
小田 洋一郎 様
(欧州・中東地区支配人室 ヘルシンキ支店長)

コーディネーター
遠藤 悦郎
松本 由美

オープニングフェスティバル



- 日時** 2015年10月21日(水)
12:00～13:05 第1部 屋内特設ステージ
14:00～14:45 第2部 屋外広場
14:55～16:00 第3部 屋内特設ステージ
- 場所** カンピョショッピングセンター (Kamppi Shopping Centre)
- 観客数** (屋内および屋外) : 約48,000名
- 日本側** 愛知和男 会長、篠田研次 在フィンランド日本国大使館特命全権大使、東條宏史 損害保険ジャパン日本興亜株式会社専務執行役員、武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事
- フィンランド側** Jussi Pajunen ヘルシンキ市長、Maija Tanninen-Mattila ヘルシンキアートミュージアム HAM 館長、Marja-Leena Rinkineva ヘルシンキ市経済開発局長、Saila Marchere ヘルシンキ市マーケティング局長、Tuulikki Becker Visit Helsinki CEO
- 参加者** (第1部) 師勝太鼓「鼓っつ」、伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門、金城学院大学書道部、中京大学 晴地舞、太鼓衆 翔鼓、全日本婚礼美容家協会
(第2部) カラーガードサークル LUSTER、中京大学晴地舞、TOKARA
(第3部) アンサンブル・リベルタ、TOKARA、剣伎衆かむみ、カラーガードサークル LUSTER

〈第1部〉幾重にも吹き抜けのある円形ステージにてワクワクするテンポのオープニングにふさわしい師勝太鼓「鼓っつ」の和太鼓演奏によって今年のジャパンウィークオープニングフェスティバルがスタートした。若さあふれる中京大学晴地舞のよさこい、楽しいリズム感あふれる金城学院大学書道部の書道パフォーマンスと続いた。次の伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門のなごみを感じる演技には市民は思わず微笑んでいた。そして太鼓衆翔鼓の喜びあふれるパフォーマンスと続き、全日本婚礼美容家協会有志による舞台公演の紹介が行われた。

〈第2部〉危ぶまれた天気も影響なく、曇り空の下で今度は舞台を屋外広場に移してスタート。最初に TOKARA のフィンランドの広大な空に響き渡る力強い和太鼓演奏が始まると、その音に引き寄せられるように人だかりができた。そのあとのカラーガードサークル LUSTER はリズムカルでテンポのあるパフォーマンスを披露した。最後には屋内につづいて中京大学晴地舞がエネルギー溢れるよさこいを披露し、観客から大きな拍手が送られた。

〈第3部〉ステージを取り囲むあふれんばかりの観客。吹き抜けの一番高いところまでも観客で埋まった中でオープニングフェスティバルの第3部がスタートした。最初にアンサンブル・リベルタの邦楽器による演奏が始まり機運が高まったところで両国の実行委員会出席者紹介後、スピーチが行われた。ユッシ・パユネン ヘルシンキ市長、篠田研次特命全権大使のスピーチと続き、最後に愛知和男会長がジャパンウィーク開幕の開会宣言を行った。

その後パフォーマンスと続き、まずダイナミックな TOKARA による和太鼓演奏を観客はリズムをとりながら楽しみ、次に独特な日本文化を醸し出す剣伎衆かむみの剣伎ショーは、突然のサムライ登場に観客は大いに盛り上がった。最後はカラーガードサークル LUSTER の迫力あるステージに大きな拍手が送られていた。あふれんばかりの観客に囲まれたオープニングフェスティバルは無事終了した。

ウェルカムレセプション



- 日時** 2015年10月23日(金) 16:00～18:00
- 場所** 市庁舎 (City Hall)
- 参加団体** 50団体
- 日本側** 愛知和男 会長、篠田研次 在フィンランド日本国大使館特命全権大使、東條宏史 損害保険ジャパン日本興亜株式会社専務執行役員、武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事
- フィンランド側** Jussi Pajunen ヘルシンキ市長、Stuba Nikula ヘルシンキ市文化局長、Maija Tanninen-Mattila ヘルシンキアートミュージアム HAM 館長、Marja-Leena Rinkineva ヘルシンキ市経済開発局長、Tuulikki Becker Visit Helsinki CEO

ウェルカムレセプションの受付が始まると、ヘルシンキの音楽隊がフィンランド音楽を奏でる中、ユッシ・パユネン ヘルシンキ市長と日本側実行委員が会場入口にて日本の参加者を出迎えた。そして一人一人にドリンクが手渡され、とても明るく楽しい雰囲気でのレセプションの準備が整った。

最初に両国実行委員会メンバーの紹介があり、ユッシ・パユネン ヘルシンキ市長の歓迎の挨拶でスタートし、その後篠田研次特命全権大使、愛知会長のスピーチと続いた。そしてヘルシンキ市長、愛知会長とのプレゼント交換後、石垣市長をはじめとするゲストによるスピーチが行われた。セレモニーの最後として参加団体ごとにステージに上がり、ヘルシンキ市長、篠田大使、愛知会長により各参加団体代表に参加証書が手渡された。

参加証書授与終了後、ヘルシンキ市長の「乾杯」の一言でレセプションパーティがスタートした。参加者はドリンクやフィンランドらしいオードブルを楽しみ、歓談のひとときを過ごした。ジャパンウィークの公式行事としてとても楽しく華やかなプログラムであった。



表敬訪問

日 時 2015年10月23日(金) 15:00～15:30

場 所 市庁舎 (City Hall)

中山義隆石垣市長がユッシ・パヌネン ヘルシンキ市長に表敬訪問した。ヘルシンキ市長からの歓迎の言葉、中山市長からのご挨拶と続き、同行した八重山古典音楽研究会による八重山民謡が披露された。最後にお互いのプレゼント交換と歓談の時間となり和やかな雰囲気での表敬訪問となった。



舞台公演

10月21日(水)~26日(月)の期間でサヴォイシアター (Savoy Theatre)にて行われた。「舞台公演」の予約業務はサヴォイシアターが9月上旬からスタートし、本番前に万全の準備が整った。各参加団体は演技終了後、感動と感激に満ち溢れ、このイベントの成功を劇場公演で確信することができた。ほぼ満員の観客は十分に楽しみ、公演は大成功であった。ヘルシンキ市民に感謝します。



日時 10月21日(水) 18:30~21:00

観客数 約660名

参加者 全日本婚礼美容家協会、アンサンブル・リベルタ、
増田厚司 (EcKoto Creations) & Kari Ikonen (Jazz Pianist)、
剣伎衆かむみ featuring 小林未郁、TOKARA

劇場公演の初日最初の演目は、全日本婚礼美容家協会による着物ファッションショー。ヘルシンキの若い女性がモデルの大部分をつとめ、美しくヘアメイクされ変身した姿や十二単を一枚ずつ着付けてゆくシーンには観客の目が釘付けになった。続いてアンサンブル・リベルタの箏と尺八の息の合った見事な演奏、休憩をはさんで増田厚司とヘルシンキのジャズピアニストによる箏とピアノのコラボレーションには大きな拍手が送られていた。続いては剣伎衆かむみ featuring 小林未郁、伸びのある小林未郁のヴォーカルとプロフェッショナルな剣伎ショーに観客は大満足。最後が TOKARA の和太鼓演奏、ゆるみのないバチさばきに、舞台終了後も興奮冷めやらぬ客席であった。

日時 10月22日(木) 18:30~21:00

観客数 約620名

参加者 佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室、カラーガードサークル LUSTER、
中京大学晴地舞、Dr.Subsonic/REI、スタジオ ぼこ・あ・ぼこ、太鼓衆翔鼓

最初は佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室の琉球舞踊、沖縄特有の踊りをトークを交えてご紹介いただいた。続いてカラーガードサークル LUSTER のめまぐるしく変わるシーンとテンポの良い演技は圧巻、そして中京大学晴地舞のパワフルなよさこいで前半を締めくくる。休憩をはさみ Dr.Subsonic/REI のピアノ演奏、その癒しの音楽に観客は聞き惚れていた。続いてスタジオぼこ・あ・ぼこのタップダンスは気持ちのよいリズム感であふれていた。最後は太鼓衆翔鼓、大人数で打つ迫力のある太鼓のリズムに客席からは大きな拍手が送られていた。



日時 10月23日(金) 18:30~21:00

観客数 約700名

参加者 AIS BALLEET JAPAN、八重山古典音楽研究会、
増田厚司 (EcKoto Creations) & Aki Rissanen (Jazz Pianist)、
金城学院大学書道部、伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門、師勝太鼓「鼓つつ」

AIS BALLEET JAPAN のコンテンポラリーダンスで幕を開ける。よく鍛え抜かれた子供たちの踊りに盛大な拍手が送られていた。続いて八重山古典音楽研究会による歌と三線の演奏、沖縄独特の旋律が心地よく、観客はじっと聞き入っていた。次に増田厚司とヘルシンキのジャズピアニストによる箏とピアノの息のあったコラボレーションと続き、休憩をはさんで金城学院大学書道部の若さあふれる書道パフォーマンス、そして伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門のほほえましいパフォーマンスにあたたかい拍手が送られていた。最後は師勝太鼓「鼓つつ」の和太鼓演奏、和気あいあいとしたその演奏スタイルには大きな拍手が送られていた。





日 時 10月24日(土) 17:30～20:00

観客数 約740名

参加者 ORIENTARHYTHM、小林未郁、長沼静きもの学院熊谷校、立命館大学書道部、TOKARA、アンサンブル・リベルタ

客席は満員。最初は ORIENTARHYTHM、その映像とコンテンポラリーダンスを組み合わせたアップテンポのパフォーマンスは圧巻。続いて小林未郁のピアノ弾き語り、美しい透明感のある歌声に観客は魅了されていた。次に長沼静きもの学院熊谷校の着物ショー。ヘルシンキの若い男女をモデルに起用して、十二単を中心に美しい着付を披露。その着付けと着物の美しさに大きな拍手が送られていた。休憩をはさみ、立命館大学書道部の力強い書道と工夫を凝らしたパフォーマンス、最後が TOKARA とアンサンブル・リベルタの和太鼓と箏・尺八・パーカッションのコラボレーション、緩急織り交ぜた曲進行に観客は十分堪能していた。

日 時 10月25日(日) 17:30～20:00

観客数 約740名

参加者 ORIENTARHYTHM、KEIKO *萬桂、TOKARA、iEARN 大正琴プロジェクト&防災世界子ども会議、LuLu Bellydance Team [Marjana]、剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

今日も客席は満員。ORIENTARHYTHM のパフォーマンスで幕を開ける。彼らのパフォーマンスに感嘆の声が上がった。次が KEIKO *萬桂の舞書。その神秘的で鬼気あふれる所作の数々に観客の目は舞台に吸い寄せられていた。前半は TOKARA の和太鼓演奏で締めくくる。ダイナミックな迫力の演奏に観客は満足した。後半は iEARN 大正琴プロジェクト&防災世界子供会議の大正琴演奏と映像を使い、国内外での活動を PR された。次が LuLu Bellydance Team [Marjana] のみなさんが妖艶なダンスを披露、和風の衣装で日本らしさをアピールしていた。最後は剣伎衆かむみ featuring 小林未郁、小林未郁の魅惑的な艶のある歌声とスペクタクルな剣伎ショーに拍手が鳴り止まなかった。



日 時 10月26日(月) 18:30～21:00

観客数 約740名

参加者 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ & Helsinki Symphonic Winds、前川朋子、剣伎衆かむみ、TOKARA

劇場公演そしてジャパンウィーク 最終日、満員の客席。この日は特にチケットを入手できなかった入場希望者で劇場前はあふれかえった。最初の演目は、愛知淑徳大学ウィンドオーケストラの吹奏楽演奏。Helsinki Symphonic Winds が加わっての合同演奏は、シベリウス没後 150 周年に合わせた曲も含めて素晴らしい演奏を聴かせてくれた。休憩をはさみ、前川朋子が美しい伸びのある歌声を披露。映し出されたサウンドアートの映像が独特の世界観を醸し出していた。続いて剣伎衆かむみがプロフェッショナルでスピード感あふれるスペクタクルな剣伎ショーを披露し、そして最後は TOKARA の和太鼓演奏。リズム感あふれるパワフルな演奏でジャパンウィークの幕は降りた。

| 全日本婚礼美容家協会 |



| アンサンブル・リベルタ |



| 増田厚司 (EcKoto Creations) |



コラボレーション Kari Ikonen



コラボレーション Aki Rissanen

| 剣伎衆かむみfeaturing 小林未郁 |



| TOKARA |



| 佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室 |



| カラーガードサークルLUSTER |



| 中京大学 晴地舞 |



| Dr.Subsonic/REI |



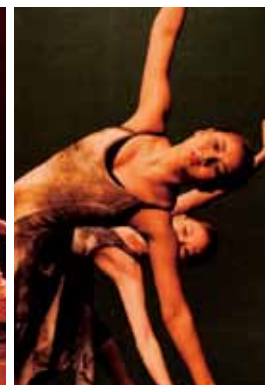
| スタジオ ぽこ・あ・ぽこ |



| 太鼓衆 翔鼓 |



| AIS BALLET JAPAN |



| 八重山古典音楽研究会 |



| 金城学院大学書道部 |



| 伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門 |



| 師勝太鼓「鼓っつ」 |



| ORIENTARHYTHM |



| 長沼静きもの学院 熊谷校 |



| 立命館大学書道部 |



| KEIKO * 萬桂 |



| iEARN大正琴プロジェクト&防災世界子ども会議 |



| LuLu Bellydance Team [Marjana] |



| 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ | コラボレーション Helsinki Symphonic Winds



| 前川朋子 |



展示・実演

日時 10月22日(木)～25日(日)

場所 アンナンタロ (Annantalo)

展示・実演会場アンナンタロはヘルシンキの中心部にあり、子供達の課外授業などが行われ、多数の文化イベントも実施されている施設である。アンナンタロ内の1階、2階を展示会場とし開催した。4日間の日程で実施し、平日・週末ともに数多くの来場者が訪れた



リボンカッティングセレモニー

日時 10月22日(木) 09:45～10:00

場所 アンナンタロ (Annantalo)

日本側 愛知和男 会長、篠田研次 在フィンランド日本国大使館特命全権大使、
武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事

フィンランド側 Ritva Viljanenヘルシンキ副市長、Kaisa Kettunenアンナンタロ館長、
Tuulikki Becker Visit Helsinki CEO

大変寒く風が強い朝であったが、展示実演会場アンナンタロの正面玄関前にてリボンカッティングセレモニーは行われた。両国の実行委員会出席者紹介後、最初にリトヴァ・ヴィリヤネン ヘルシンキ副市長、次に篠田研次特命全権大使、最後に愛知和男 会長よりスピーチが行われた。リボンカット終了後ヘルシンキ市民に会場はオープンした。



茶道実演 10月22日(木)

宝塚茶道同好会

一回約 30 名で計 7 回の実演が行われた。会場内を庭に見立て、吊り灯籠などを飾った演出は大変喜ばれた。また来場者に折鶴や紙風船、千代紙のお雛様など小さなお土産を用意された。



茶道実演 10月23日(金)

煎茶道静風流

一回約 35 名で計 8 回の実演が行われた。来場者の中から数名、畳の上でお茶席の体験をしていただいた。お点前披露後の質疑応答では、お茶だけでなく、掛け軸や着物についての質問も多くあった。

茶道実演 10月24日(土)

室内楽

一回約 10 名で計 4 回の実演が行われた。気楽にお茶を楽しめるオリジナルの茶箱を使ったお点前を披露された。また、デニム生地の着物も展示され、こちらにも多くの関心が寄せられた。



茶道実演 10月25日(日)

裏千家茶道サークル「若草会」

一回約 35 名で全 4 回の実演が行われた。また午前午後一回ずつの体験教室を行った。お茶をいただく作法についても詳しく説明をして参加の方々に喜んでいただいた。体験教室では、実際にお茶を立てる体験をしてもらい、温度や茶筌を振る回数などを英語のフリップで説明されていた。

日本画 彩潮会・日本画 彩心会

日本画作品を、5名の作家が2点ずつ展示された。実演では、短冊に墨をストローで吹いたり、色紙に絵を描いたり、書を団扇に書く作品の製作を教えていた。また作品がプリントされたオリジナルポストカードを来場者に配っていた。



学生折り紙サークル colorful & FIT

折り鶴や花、昆虫、恐竜など立体的な折り紙作品を制作、展示された。来場者と共に実演制作しながら、折り紙を通して小さな子どもから老人まで幅広い交流していた。



国際倶楽部

I♡熊本のTシャツを着て、平和、日本等の書を展示された。実演では来場者の名前を漢字で書き、その書き方を教えていた。キャラクターを駆使して熊本をPRしたり、一緒に折り紙をして、現地の方々との交流を楽しんだ。



俳画 優美会

壁面にはがき作品と軸物作品、テーブル上には色紙作品を多数展示し、俳画の素晴らしさをご紹介いただいた。また、実演では折り紙で来場者と交流された。



いけばな rime flower

嵯峨御流のいけばな 4 作品を展示された。実演では升を使った生け花を来場者にお教えいただいた。また、作品アルバムなどを通して生け花をご紹介いただいた。



富山大学芸術文化学部とラハティ応用科学大学デザイン学部

相互交流を長年続けている現地の大学と連携し、学生が制作したアクセサリー作品の展示や活動内容の写真パネルなどを展示された。個性あふれる作品とともに日本とフィンランドの深いつながりを紹介いただいた。



松山大学書道部「南風会」

漢字やひらがなで来場者の名前などを書いたり、実際に書道を体験できるワークショップを実施された。現地の方も楽しそうに見本を見ながら文字を書いていた。アンナンタロに授業の一環で訪れた子供たちにもワークショップを行った。



山口県立大学文化創造学科

武蔵野美術大学と共同参加。山口県立大学からは学生の時計作品 15 点を展示。武蔵野美術大学からはパネルや工芸作品を展示された。学生たちの個性があふれる展示となり、たくさんの来場者が足を止め鑑賞していた。



クロシェット ローズ

様々な和風の模様が描かれた三段重ねの器、可愛くデザインされたワイングラス、バラをモチーフとした作品を展示された。転写シールを用いて好きな模様で器を彩るポーセラーツをご紹介いただいた。



キャラクター工房 MIYABI

歌舞伎や日本舞踊のイラストを展示された。またイラストの塗り絵を来場者に楽しんでいただき、キャラクター工房 MIYABI のかわいらしい作品に触れていただいた。



株式会社ポプラ社

大型絵本などを含む多数の絵本を展示された。展示会場にて、各日1～2回、子供たちを集め絵本の読み聞かせ実演し、たくさんの子供たちが参加し楽しんでいる様子が見られた。



文化服装学院 生涯学習センター有志

七五三の衣装、小物、人形等の作品及び服飾にまつわる日本の文化行事を展示にて紹介された。機織りの実演や着物の着付け体験などを通して来場者と交流をしていた。



おかざき匠の会

ハゼの和蠟燭、三河織、漆芸、書、草木染め、八丁味噌等の匠たちの作品を展示された。岡崎の伝統文化と新しい物作りを幅広くご紹介いただいた。また、今回はおばあちゃんからお孫さんまでの3世代で草の根の交流にご参加いただいた。



特定非営利活動法人川口フィンランド協会

ギターのパックガード、和紙、セラミックの包丁やはさみ、鋳物鍋、おもしろ消しゴム等で、ものづくりの町「川口市」をご紹介いただいた。フィンランドと唯一、教育提携した市の市民として、来場者と情報交換と交流を楽しんでいた。



早稲田大学書道会

軸作品3点を壁面に展示し、その前で来場者の名前を漢字、ひらがな、カタカナ等で表現したり、書道及び漢字の素晴らしさを来場者に紹介し、積極的に交流していただいた。



二風谷民芸組合

代々受け継がれている伝統技術で作られたアイヌの伝統工芸品を多数展示された。木製の板にアイヌ文様をデザインする彫刻の実演は、とてもきめ細やかな職人芸であり、たくさんの来場者が関心を持ち見入っていた。



赤坂なでしこ会

木目込み人形のうし、とら、兎の干支 3 作品を始め、ひな人形等 11 体の作品を展示された。実演の手鞠作製を通して来場者と交流した。



SIMA.

縞模様 (stripe) をモチーフに白と黒で世界を表現した作品やアート作品を展示された。実演では、来場者の名前を漢字にして書くワークショップで、楽しんで交流されていた。



OTSU

障害のある方が作られたカラフルで独創的なデザインのアート作品 (絵画、工芸品) やそれらをデザインとして使用した洋服、バッグや名刺入れなどの小物を多数展示された。



fukuru

日本産の着物生地にこだわった着物ドレス 2 点や、バッグ、3D プリンターで制作した小物などを展示された。来場者からは様々な意見が聞けて日本とは違った見方が発見できた良い機会となったようだ。



こすもす会有志

パステル画作品 2 点と和紙に描いたスケッチ作品を 9 点展示された。優しい色合いや美しい風景画に来場者も足を止め、じっくり鑑賞している姿が見られた。



日本古流華道会

竹や重箱を花器に、フィンランドの花を使って 9 作品を生け、華道の素晴らしさをご紹介された。また来場者とはいけ花のワークショップを通じて交流された。



仙台市

仙台市の PR と工芸作品や特産品のキノコを展示された。しいたけ、舞茸を調理して来場者に味わっていただくなど、仙台市を広く深くご紹介いただいた。



特定非営利活動法人 GOFAR BANK

世界中の子供たちが描いた絵や絵本パネルを展示された。子供たちと一緒に絵を描いたり、風船を作ったりと現地の方と触れ合うワークショップを行い、参加した子供たちと楽しく交流していた。



関西日本・フィンランド協会

設立 36 年を迎える文化友好団体として、活動内容の紹介を展示された。長年続いている友好関係を象徴するイベント活動などを紹介し、より多くのフィンランドの方に日本との深いつながりを印象付ける展示であった。



結城クラブ

「結城紬」の着物の展示と京都のほうじ茶とお茶菓子でのおもてなしをされた。来場者はお茶を楽しみながら、着物文化に触れていただいた。



福井おむすび同好会

福井県発祥コシヒカリの新米で、「へしこ」をはじめとした福井特産の具材を使ったおむすびをご紹介いただいた。来場者は試食して、日本食の素晴らしさを十分楽しんだ。



日本旅行協定旅館ホテル連盟九州支部連合会

パネル展示や映像により九州の魅力を紹介された。女将による浴衣の着付け体験では、皆うれしそうに写真を撮りあっていた。



岩橋知子押し花教室

額入りの押し花作品を9点展示された。様々なお花で見事な風景を作り出している作品に、最初は押し花であることに気付かない来場者もいた。



チーム文福

水引細工で作られた鶴、亀、金魚や兜などの作品を多数展示された。水引でキャンドルホルダーを作るワークショップを行い、多くの来場者が関心を寄せた。



株式会社アートクロス

日時 10月22日(木)～26日(月)

場所 バンハ・サタマ (WANHA SATAMA)

市の中心部東寄りに位置するバンハ・サタマにて「Japan Art Festival in Helsinki 2015」を開催した。101点の日本美術の作品は6部門に分かれて展示された。別会場で開催された海外不動産フェアの来場者も含め、多くの市民が来場され、展示された多種多様の美術品を楽しんだ。



現地参加団体

在フィンランド日本国大使館・日本政府観光局 (JNTO)



フィンランド日本協会



日本フィンランド文化友の会



Furoshiki Kääro



Nordic Shiatsu Centre





交流プログラム

訪問交流プログラムの学校訪問については17団体、老人ホーム訪問については2団体、テーマ別訪問については4団体が参加し、各団体ともに心がふれあう交流を行った。



佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室

学 校

日 時 10月21日 (水) 10:00~12:00

学 校 名 Puistola Comprehensive School

交 流 場 所 学校内講堂

交 流 対 象 学校生徒 (12才~15才) 130名

佳藤加寿美舞踊研究所花ずみ会琉球舞踊教室は小学高学年から中学低学年のクラスに交流プログラムを行った。琉球舞踊の簡単な紹介のあと、琉球舞踊のパフォーマンス、その後小学6年生のクラスがワークショップに参加した。琉球着物の試着、舞踊の基本ステップ「すり足」の練習、扇子や竹の楽器を実際に試してみるなどを楽しんだ。学校を後にする際、参加した一人生徒がお礼を校門まで言いに来るなど、とても心が温まる訪問であった。

剣伎衆かむみfeaturing 小林未郁

学 校

日 時 10月22日 (木) 10:15~11:30

学 校 名 Strömberg Elementary School

交 流 場 所 学校内体育館

交 流 対 象 学校生徒 (10才~11才) 35名

まず剣伎衆かむみ featuring 小林未郁がパフォーマンスを20分ほど披露した。その後生徒たちは5つのグループに分かれ、刀の使い方や殺陣のワークショップを楽しんだ。このような体験をしたことがない生徒たちは大興奮であった。最後に質疑応答や写真を一緒に撮ったりしてとてもすばらしい体験の時間であった。



師勝太鼓「鼓つつ」

学 校

日 時 10月22日 (木) 10:00~12:30

学 校 名 Puotila Elementary School

交 流 場 所 学校内体育館

交 流 対 象 学校生徒 (7才~12才) 400名

師勝太鼓「鼓つつ」が演奏を始めると生徒たちは興味津々で太鼓やお囃子に聞き入っていた。言葉を使わないコミュニケーションが巧みで両手を使った簡単な遊びで生徒たちの心を一気に掴んだ。生徒たちは演奏の間に川渡しの船頭の編み笠や棒でのパフォーマンスに加わってもらった。ワークショップでは和太鼓の世界を楽しく学び、音楽の魅力は国も文化も言葉の壁も飛び越えて、全員が一体化した時間をもらしてくれた。

TOKARA

学 校

日 時 10月22日 (木) 10:15~12:15
学 校 名 Yhtenäiskoulu Comprehensive School
交 流 場 所 学校内体育館
交 流 対 象 学校生徒 (6才~16才) 100名

TOKARA はたくさんの生徒たちに囲まれて2回にわけて交流プログラムを実施した。和太鼓演奏をスタートすると、初めての経験にそのダイナミックな大きな音で驚いた生徒もいたが、すぐに興味深く見入ったり、中には演奏に合わせて踊る生徒もいた。ワークショップでは2回ともに20名前後の生徒たちが太鼓の叩き方やリズムを教わり楽しんだ。



立命館大学書道部

学 校

日 時 10月22日 (木) 14:15~16:00
学 校 名 University of Helsinki
交 流 場 所 ヘルシンキ大学内教室
交 流 対 象 ヘルシンキ大学の日本語学科の学生

立命館大学書道部は自らの大学の紹介と書道とは何かについてのプレゼンテーションを行った。その後、交流プログラムに参加した学生に書道体験のワークショップを実施した。日本語を学ぶ学生が漢字に詳しいことに立命館大学書道部は感動し、書を通しての思い出深い交流の時間となった。



カラーガードサークルLUSTER

学 校

日 時 10月22日 (木) 13:30~14:30
学 校 名 University of Helsinki
交 流 場 所 ヘルシンキ大学内教室
交 流 対 象 ヘルシンキ大学の日本語学科の学生

カラーガードサークル LUSTER は、サークルが所属する立命館大学の紹介、カラーガードについての説明とビデオ上映を行った。その後パフォーマンスを披露し、最後に両校学生による写真撮影にて交流プログラムを終了した。



伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門様

学 校

日 時 10月23日 (金) 8:30~9:50
学 校 名 Kulosaari Elementary School
交 流 場 所 学校内講堂 **交 流 対 象** 学校生徒 (7才~12才) 250名

伝統芸能南京玉すだれ楽笑一門はパフォーマンスを日本語で生徒たちへ披露した。南京玉すだれで作られた形は日本独自の物もあり、ボランティア通訳を通じて説明した。生徒たちは南京玉すだれで「釣り竿」を作り、磁石付きの紙の「魚」を釣って楽しんだ。中にはもっと難しい「家」や「太陽」を教えてもらいながら作った生徒もいた。冒頭のパフォーマンスでは静かであった生徒たちはとても興奮し、会場の講堂が「笑い」に包まれた。



スタジオ ぽこ・あ・ぽこ

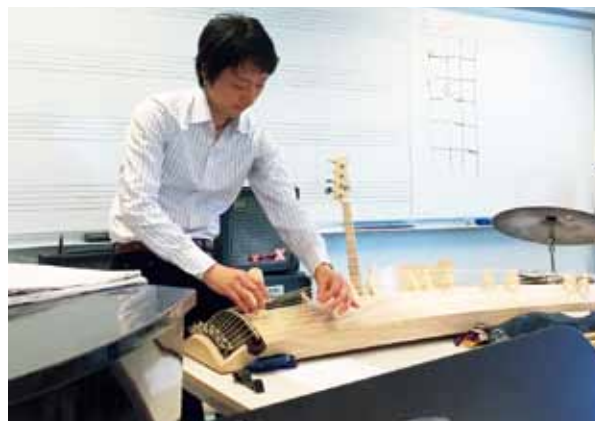
学 校

日 時 10月23日 (金) 9:00~10:30

学 校 名 Kulosaari Elementary School

交 流 場 所 学校内講堂 交 流 対 象 学校生徒 (7才~12才) 100名

スタジオぽこ・あ・ぽこが最初にタップダンスを披露した。生徒たちは手拍子で参加し、興味深く鑑賞している様子であった。ワークショップでは数名の生徒たちに舞台上がっていただき、下駄の体験や、踊りの簡単なステップの練習をした。最後には生徒と先生全員と一緒に踊り、大変盛り上がった交流プログラムであった。



Eckoto Creations

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~11:30

学 校 名 Meilahti Secondary School

交 流 場 所 学校内音楽室

交 流 対 象 学校生徒 (13才~16才) 20名

Eckoto Creations は音楽の時間を選択している生徒たちと交流をした。即興で篠笛とともにフィンランドの曲を琴で弾くと生徒たちはとても驚いた。篠笛と琴のワークショップでは、篠笛の音をすぐに出せる生徒もいた。そして生徒たちが琴でフィンランドの曲に挑戦した。質問を積極的にする生徒もあり、とても有意義な交流時間であった。

iEARN 大正琴プロジェクト&防災世界子ども会議

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Lärken Swedish Upper Secondary School

交 流 場 所 学校内劇場 交 流 対 象 学校生徒 (16才~18才) 300名

iEARN 大正琴プロジェクト&防災世界子ども会議は集まった生徒たちへまず大正琴の紹介と演奏を行った。その後防災世界子ども会議の活動の話をした。大正琴のワークショップでは8人の生徒が弾き方を習った。生徒たちは初めて見る大正琴をとっても興味深く見ていた。また防災についても学んだ。



特定非営利活動法人 GOFAR BANK

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Ruoholahti Elementary School

交 流 場 所 学校内教室 交 流 対 象 学校生徒 (7才) 25名

GOFAR BANK は自己紹介と活動内容の紹介のあと、オリジナルキャラクター GOFAR の物語を紙芝居形式でボランティア通訳を介して読み聞かせをした。美しく説得力のある物語に生徒たちのみならず担任の先生も感動した。その後生徒たちは GOFAR が届ける幸せの風船を作った。好きな色の風船に耳、鼻、目を付けたりマジックで描いたり、髪の毛や手足、羽などを付けた。とてもぬくもりを感じるプログラムであった。

長沼静きもの学院熊谷校

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Helsinki Upper Secondary School of Languages I

交 流 場 所 学校内中央ホール (講堂)

交 流 対 象 学校生徒 (7才~12才) 100名

長沼静きもの学院熊谷校は女子生徒7人に振袖、袴、浴衣を、男子生徒2人に袴、浴衣を着付け、それぞれの着物に関する説明を交えながら紹介した。また、長沼静きもの学院熊谷校のメンバーをモデルとして十二単を着付けを披露した。その後盆踊り、質問コーナー、写真撮影をして思い出に残る交流プログラムとなった。



学生折り紙サークルcolorful & FIT

学 校

日 時 10月23日 (金) 9:45~12:00

学 校 名 Töölö Elementary School

交 流 場 所 学校内教室

交 流 対 象 学校生徒 (12才) 50名

学生折り紙サークル colorful & FIT は自己紹介の後、折り紙の実演とその作った作品の紹介をし、生徒たちへワークショップを行った。1回目のワークショップでは「浴衣」を折り、2回目のワークショップでは「羽ばたく鶴」を折った。生徒たちの多くは折り紙をするのが初めての経験で、とても興味津々に作り方を習い、苦戦しつつも大変楽しんでいた様子であった。



太鼓衆 翔鼓

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Itäkeskus Comprehensive School

交 流 場 所 学校内体育館

交 流 対 象 学校生徒 (7才~15才) 440名

太鼓衆翔鼓が学校に到着すると、生徒たちが集まってきて訪問を歓迎した。交流プログラムは1回目は小学生の生徒たち、2回目は中学生の生徒たちを対象に行われた。2回のプログラムともに最初は和太鼓の演奏が行われ、音の大きさに生徒たちは驚いていた。そしてその後のワークショップではリズムをとりながら楽しく和太鼓を生徒たちは叩き、初めての体験にワクワク興奮した様子であった。



日本画 彩潮会 & 日本画 彩心会

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Töölö Specialiseringsgymnasium Special High School

交 流 場 所 学校内家庭科 理科室 交 流 対 象 学校生徒 (17才) 20名

日本画彩潮会と彩心会は最初に日本画と画材について生徒たちに説明した。その後書道と日本画の実演、ワークショップ、質疑応答へと進んだ。生徒たちは書道と日本画の作品に感嘆し、今回この貴重な体験をできたことに大変感激していた。生徒たちにとって学生時代の素晴らしい思い出となった。



早稲田大学書道会

学 校

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

学 校 名 Latokartano Comprehensive School

交 流 場 所 学校内生物学教室 交 流 対 象 学校生徒 (13才~14才) 21名

最初に早稲田大学書道会は日本語のことわざを素晴らしい書道で表現した。その後生徒たちはいくつかのグループに分かれてワークショップに臨んだ。毛筆と墨の使用方、漢字の意味、基本的な「ひらがな」や「カタカナ」、日本語で自らの名前をどう書くか、などを学んだ。会場は徐々にとてもよいムードとなり、生徒たちはワークショップをとっても楽しんだ。



株式会社ポプラ社

学 校

日 時 10月26日 (月) 9:15~11:15

学 校 名 Taivallahti Comprehensive School

交 流 場 所 学校内教室

交 流 対 象 学校生徒 (7才~9才) 25名

ポプラ社は絵本「おまえうまそうだな」「ねずみくんのチョコッキ」「おばけのてんぷら」の読み聞かせをフィンランド語で行い、参加した生徒たちは「楽しかった」との感想を述べた。また塗り絵や折り紙を通して交流した。

アンサンブル・リベルタ

老人ホーム

日 時 10月22日 (木) 14:00~15:30

老人ホーム名 Hepeatien Palvelutalo Pohjois

交 流 場 所 老人ホーム内集会場 交 流 対 象 約60名

最初にアンサンブル・リベルタは伝統的な日本の曲、モダンな曲を合わせて数曲演奏を披露した。会場のムードは盛り上がり曲に合わせて手拍子したり、踊る方もいた。曲のアンコールリクエストもあった。その後琴に触れていただき、「こんなハイレベルの日本文化を体験できて光栄です。」とのお声もいただいた。



宝塚茶道同好会

老人ホーム

日 時 10月23日 (金) 10:00~12:00

老人ホーム名 Kustaankartanon monipuolinen palvelukeskus

交 流 場 所 老人ホーム内集会場 交 流 対 象 17名

宝塚茶道同好会が茶道実演を披露し、初めは緊張されている方もいたが、お茶、お菓子を召し上がり、緊張もほぐれ「とてもおいしい」と評判であった。その後の茶道のワークショップではほとんどの方が参加し、交流プログラムの最初には無表情であったが、別れ際の握手のときには目頭が熱くなっていた方もいた。言葉は違っても気持ちが通じた、と感じられた交流プログラムであった。

OTSU

福祉施設交流

日時 10月21日(水) 9:40~12:20

施設名 Lyhty

交流場所 知的障がい者のためのテキスタイル工房

交流対象 工房でアート作品に取り組む知的障がい者

指導員の方より工房や運営母体組織概要、詳しい工房での実際の活動を説明いただいた。フィンランドの指導員は知的障がい者対応のトレーニングを受けたアーティスト、染色やテキスタイルの専門家であり芸術性、創造性、作品としての完成度を高める事が知的障がい者の生きがいや社会との適応に通じる考えであることに日本との違いを感じた。



おかざき匠の会 (草木染工房しかり)

草木染交流

日時 10月21日(水) 12:00~15:30

施設名 Helsinki Vocational College

交流場所 学校内教室

交流対象 ファッションやテキスタイルを専攻している学生(16~20才)12名

おかざき匠の会は草木染ハンカチを作るワークショップを行った。作業はとてもシンプルであったが、道具や植物から作った染料など見慣れないものが多く、それらについて生徒たちから多くの質問が投げかけられた。染料の材料の全ては近所の山の中や畑で採ったりする、という話に生徒たちは驚いていた。



AISS BALLET JAPAN

バレエ交流

日時 10月22日(木) 8:30~19:30

施設名 Finnish National Opera Ballet School

交流場所 バレエ学校内練習会場

交流対象 バレエ学校でレッスンを受講する生徒

AISS BALLET JAPANは参加者の年齢別に合わせたレッスンに参加した。レッスンではバレエ学校の先生の前、それぞれの生徒同士が互いに学び刺激を受けていた。24日にはバレエ学校の計らいでオペラ劇場のプロダンサーのレッスンを間近で見学できた。



剣伎衆かむみfeaturing 小林末都

武道交流

日時 10月26日(月) 9:00~10:30

施設名 Theatre Academy of the University of Arts

交流場所 大学内ホール及び講義室

交流対象 舞台演劇、舞台演出を学ぶ学生(20代~30代)約50名

剣伎衆かむみ featuring 小林末都は最初に自己紹介をして、その後「侍の精神」を理解してもらうための説明が行われ、希望者6名をステージに上げてそれぞれに振り付けをして立ち回りのポイントやコミュニケーションの極意を教えた。講義室では侍精神についてや、普段の稽古の様子などの質疑応答があった。とても充実した講義時間であった。



西日本友好親善訪問団 交流プログラム

日時 10月20日(火)・23日(金)・26日(月) 場所 各ホテル→ヘルシンキ訪問交流会→ヘルシンキ交通局・地下鉄車両基地訪問→地下鉄チャーター乗車



ヘルシンキに到着した翌日は、ジャパンウィークの目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、ヘルシンキ大学文学部の世界文化学科(東アジア専攻)で、現在日本の研究を行い、同時に日本語学ばれている学生との訪問交流会を開催した。交流会では何故日本語に興味を持ったのか、勉強した日本語を今後どのように生かしていきたいかという点を切り口にしたスピーチに、参加者一同興味深く聞き入った。スピーチの後は質問タイムとなり、日本とフィンランドの違いや、音楽やアニメといったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表がスピーチをしていただいたヘルシンキ大学の学生にお土産を手渡し、交流会は終了した。

交流会終了後は、地元ヘルシンキで地下鉄やトラム、バスの運営を行っているヘルシンキ市交通局の地下鉄車両基地へ移動。地下鉄車両基地ではヘルシンキ市交通局の担当者から歓迎の挨拶とヘルシンキ市の地下鉄の説明を受けるなど簡単なセレモニーを開催。その後参加者は今回のジャパンウィーク用にチャーターした北欧らしいヴィヴィットなデザインの地下鉄車両に乗車し、車窓から見えるヘルシンキ近郊の美しい風景を楽しんだ。



ヘルシンキナイト

日時 10月20日(火)・23日(金)・26日(月)

場所 [WANHA SATAMA]

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、かつて港に運ばれた荷物を保管するための鉄道貨物倉庫を改修した多目的施設「WANHA SATAMA」にて夕食会「ヘルシンキナイト」を開催。日本側は20日が丸尾和明氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、23日と26日が菊地憲一氏/株式会社日本旅行常務取締役兼執行役員西日本営業本部長、現地側は20日がヤーコ・レフトネン氏/フィンランド政府観光局副局長、26日がトゥーリッキ・ベッカー氏/ヘルシンキ市観光局局長のご挨拶でヘルシンキナイトが開始。参加者の皆様にフィンランド創作料理をご堪能いただく一方、食事の間には北欧伝統のクリスマス前の光の祭典『サンタ・ルチア祭り』を再現した行進と合唱をはじめ、民族衣装をまとった男女がフィンランドの民族音楽に合わせてコミカルなフォークダンスを披露し、会場の雰囲気盛り上げた。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地ベルギー、ブリュッセルの案内とともに終了した。



編集後記

この度のジャパンウィーク開催にあたり、ヘルシンキ市関係者並びに実行委員会の受入協力に感謝申し上げます。また、ジャパンウィーク運営を支えていただいた在フィンランド日本国大使館の皆様方に厚く御礼申し上げます。昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーター、多忙にも関わらずボランティアとして携わっていただいた皆様、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々の協力なくして

無事に終了することはできませんでした。ここに深く感謝申し上げます。日本全国からジャパンウィークの趣旨に賛同いただき、両国間の草の根レベルの国際交流に参加された皆様に厚く御礼申し上げます。今後も真摯な相互理解・異文化交流の輪を広げて、世界が心一つになれるよう、ジャパンウィークを通じ貢献できれば幸いです。今後とも皆様方のご支援、ご協力を引き続きお願い申し上げます。



助 成



公益財団法人 双日国際交流財団

主 催



公益財団法人 国際親善協会

〒112-0003 東京都文京区春日 2-10-15 志知ビル 4 階
TEL : 03-5802-0351 FAX : 03-5802-0353

E-mail info@iffjapan.or.jp

URL <http://www.iffjapan.or.jp>